

09年上期、日中貿易が3割減

7月23日に財務省が発表した日中貿易統計(速報)によると、2009年上期の日中貿易額は9兆7924億円で昨年同期比28.8%減になった。そのうち対中輸出は4兆4446億円(同32.1%減)、輸入が5兆3478億円(同25.7%減)であった。

昨年後半に顕在化した世界金融危機が影響し、日中貿易は輸出入共に大幅に減少した。上期に日中貿易額が減少したのはアジア金融危機の影響を受けた1998年以来10年振りのことである。しかし、需要の減退、資源価格の下落などにより、日本の上期の貿易総額が昨年同期比で40.7%減、日米貿易が43.8%減であったことと比較すると日中貿易の減少幅は小さい。中国の大胆な内需拡大政策が一定の効果を挙げていると見ることができる。

ここ数年来金額が大きく、貿易増大に寄与してきた品目では、輸出の半導体等電子部品、鉄鋼、有機化合物、プラスチック、電気回路等の機器、自動車の部分品、非鉄金属、輸入の衣類・同付属品、電算機類、音響映像機器、通信機、金属製品等がすべて減少に転じた。ただ、輸出のプラスチックと非鉄金属は数量が増加した。また輸出の船舶と輸入の医薬品は数量、金額共に増加した。

国・地域別貿易額を比較すると、中国は日本の貿易総額の20.4%を占め、昨年に引き続き第1位となった。2位アメリカ(6兆5792億円、同13.7%)との差を広げた。以下3位韓国(2兆9352億円)、4位台湾(2兆2136億円)、5位オーストラリア(2兆1365億円)、6位タイ(1兆5022億円)、7位ドイツ(1兆4653億円)、8位サウジアラビア(1兆3480億円)、9位香港(1兆3284億円)、10位インドネシア(1兆2984億円)であった。エネルギー価格の下落で産油国の順位が下がった。

またアジア地域全体では日本の貿易総額の48.8%を占め、昨年同期より3.9ポイント上回り、貿易のアジアシフトを示した。